



一般財団法人

難病治療開発機構ニュース

Vol.8-1 January 2020 発行:一般財団法人難病治療開発機構

2020年1月19日(日)「第7回健康アカデミー」を東京・霞が関で開催致しました。

今回は「線維筋痛症・骨粗鬆症の新しい治療」をテーマに、当財団理事長の 西岡久寿樹が「線維筋痛症の治療薬をめぐる」、東京大学大学院医学系研究科免疫学教授の高柳広先生が「進歩した骨粗鬆症の治療」を講演致しました。

会場には患者様の他、医師、看護師、薬剤師、理学療法士が参加され、講演後の質疑応答では会場から線維筋痛症の治療や骨粗鬆症治療薬について実際の臨床に役立つと考えられる質問があり、有意義な「健康アカデミー」となりました。



線維筋痛症の治療薬をめぐって

西岡久寿樹

政策研究大学院大学Global Health Care Senior Fellow
米国リウマチ学会・アジア太平洋リウマチ会議 MASTER

線維筋痛症の患者様は200万人もいるとされています。しかしながら、多くの方が適切な治療を受ける機会に恵まれていないようです。こういった医療過疎地帯の状況は私たちが臨床研究を始めた頃からあまり変わっていないと言えます。

線維筋痛症の主な症状は、成人女性に原因不明の身体の広範囲な部分に激しい痛み、かつ慢性の痛みが生じる病気です。その発症の真の原因は不明ですが、最近の研究により「痛み」のメカニズムの多くが解明されてきています。

線維筋痛症の診断は、未だに病因・病態は不明で、検査マーカーも見つかっていないため、18か所の圧痛点とFAS31の点数、問診、他の病気との鑑別診断を経て総合的に行います。しかし、激しい痛みが全面に出ている場合、なかなか鑑別診断が付きにくく、「体の広範囲の痛みが激しい＝線維筋痛症」と診断する場合も少なくありません。

最近、その効果が顕著であることから多くの神経因性疼痛治療薬が用いられてきており、新たな神経因性疼痛の治療薬も開発されてきました。今回はこの神経因性疼痛の治療薬の展望や私達のグループのケアシステムと最近のトピックスをお話いたします。

進歩した骨粗鬆症の治療

東京大学大学院医学系研究科免疫学 教授
高柳 広

骨は一度できたら代謝されないと思われがちですが、実際は一年で1割ほどの成分が新しいものに置き換わっています。硬い骨がどうやって新しく生まれ変わることができるのでしょうか？そこでは、骨を溶かす細胞「破骨細胞」と骨を作る細胞「骨芽細胞」が活躍しています。破骨細胞が古い骨に密着して吸収すると、骨芽細胞が同じくらい骨を作って強い骨が保たれています。ところが、加齢や閉経に伴ってバランスが崩れ、破骨細胞が吸収した量よりも少ししか骨を作れなくなってしまうと、骨粗鬆症になります。骨粗鬆症になると、わずかな外傷で骨折をおこしてしまい、歩行に支障をきたしたり、寝たきりの原因になります。

骨粗鬆症を防ぐには、その材料となるカルシウムを十分摂取することが必要です。ビタミンDの作用でカルシウムの吸収を高めて骨にカルシウムが貯まるようにすることが必要ですので、食事でビタミンDを十分とったり、日光にあたることが大切です。新しい骨は力がかかった場所に作られるので、日頃から適度の運動をすることも重要です。喫煙や飲酒などの危険因子を減らしたり、骨を減らす他の病気がある場合にはその治療を受けることが大切です。このようなことを心がけていても、骨折を起こすまでは痛みもなくて気づかないのが骨粗鬆症ですので、早めの検診で早期発見することで対策が取りやすくなります。

もしも、検査で骨粗鬆症とわかったとしても、今では多くの治療の選択肢があります。カルシウムや活性化ビタミンD製剤、破骨細胞を抑制するビスフォスフォネート系薬剤、エストロゲン様の骨量増加作用を持つ薬剤、副甲状腺ホルモン製剤などに加えて、最近では、破骨細胞分化因子を阻害する抗体製剤や骨形成刺激を入れる抗体製剤などが使われています。

最新の研究で、骨は単に体を支えて運動を可能にするだけでなく、免疫細胞を作る臓器でもあり、全身に影響を与えることがわかってきました。時間があれば、私の専門の骨免疫学についても紹介できればと思っています。

高柳広 教授



西岡久寿樹 理事長



一般財団法人難病治療開発機構 事務局

〒100-0013東京都千代田区霞が関1-4-1日土地ビル1階

電話: 03-3580-8532 FAX: 03-3580-8533 E-mail: info@jmrf-nanbyou.org

URL: <http://www.jmrf-nanbyou.org/> 本紙を許可なく転載することを固くお断りいたします